



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月31日

上場会社名 株式会社バッファロー 上場取引所 東  
コード番号 3352 URL https://www.buffalo.co.jp  
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 坂本 裕二  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 管理本部長 (氏名) 日下部 直喜 TEL 048-227-8860  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	9,302	9.6	411	15.9	435	10.2	271	9.9
2024年3月期第3四半期	8,485	3.3	354	△12.2	394	△9.8	246	△11.2

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 270百万円 (9.8%) 2024年3月期第3四半期 246百万円 (△11.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	115.67	—
2024年3月期第3四半期	105.23	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	9,265	6,124	66.1
2024年3月期	8,493	5,994	70.6

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 6,124百万円 2024年3月期 5,994百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	25.00	—	30.00	55.00
2025年3月期	—	30.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,680	4.1	515	24.6	543	18.1	334	190.5	142.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 (社名)、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	2,345,874株	2024年3月期	2,345,874株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	2,444株	2024年3月期	2,444株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	2,343,430株	2024年3月期3Q	2,343,430株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(会計方針の変更に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化による訪日外国人の増加からインバウンド需要が拡大し、また、良好な景況感を背景として設備投資が堅調に推移するなど、緩やかな上昇基調で推移しました。一方で国内個人消費につきましては、働き方改革や賃上げ等により雇用・所得環境は改善に向かいつつも、円安の進行による物価高騰が購買力を押し下げる形となり、本格的な回復には至っていない状況にあります。

このような環境の中、当社グループにおきましては、2024年5月9日に公表いたしました「中期経営計画2024」のもと、厳しさを増し急速に変化し続ける経営環境を乗り越えるための経営基盤の確立と更なる企業成長を目指すとともに、生活インフラである車関連事業及び外食事業を通じ地域社会に寄与すべく営業活動を行ってまいりました。

当社グループのセグメントごとの業績は、次のとおりであります。

#### <オートボックス事業>

当第3四半期連結会計期間末におけるオートボックス事業の店舗数は、15店舗であります。当第3四半期連結累計期間中における店舗の新設及び廃止はございません。

オートボックス事業が属する国内カー用品市場の環境につきましては、ゴールデンウィーク・夏季シーズンにおける外出志向の高まりからタイヤ・オイル・バッテリーを中心に消耗品の販売が堅調に推移し、また、年末商戦におきましても、冬タイヤ・タイヤチェーンなど冬季商品の需要が前年を上回ることであります。

このような環境の中で当社グループは、「クルマのことならオートボックス」の実践を通じ、お客様に安全と安心を提供し続けるべく、顧客満足度向上のための接客力の強化、技術力を備えた専門スタッフの育成に取り組んでおります。販売施策といたしましては、「安心と信頼のオートボックス車検」による車検・整備の顧客数拡大を図るとともに、中期的な重点分野と位置付けるボディコーティングやヘッドライトコーティングメニュー等、車の「美観」に関わるピットサービスメニューの拡販に努めており、順調に売上を伸ばしております。タイヤ販売につきましては、競合店及びネット販売に負けない「安さと豊富な品揃え」により、リアル店舗の魅力を最大限に生かす売場展開と、低価格帯商品の品揃えと販売強化に注力した結果、販売数量・金額実績とも前年同期比で上回ることであります。またオイル・バッテリー部門につきましても、Web予約システムによるオイル交換の即日作業予約などにより受け入れ態勢の強化が進み、オイル・バッテリーとも売上が増加しました。車販売部門は、オークション市場における売上台数が減少しましたが、販売単価の上昇及び個人向け販売の増加等により、金額実績で前年同期を上回る結果となっております。

これらの取り組みにより、オートボックス事業の売上高は8,532,767千円（前年同期比6.8%増）となりました。

なお、当社が加盟するFCのチェーン本部である株式会社オートボックスセブンにおいて、オートボックスフランチャイズチェーンパッケージ等の変更が行われ、2024年4月1日からFCチェーン本部からFC加盟店舗への卸売価格を引き下げると共に、小売に付随するロイヤリティ料率の引き上げを行っております。本変更により、当第3四半期連結累計期間において、売上原価の減少にともなう売上総利益と、ロイヤリティ料率引き上げにより販売費及び一般管理費が、従来の水準から増加しておりますが、これによる営業利益の変動は僅少となっており、今後の業績に与える影響も軽微であるものと判断しております。

#### <飲食事業>

飲食事業が属する外食業界は、インバウンド需要等を取り込みつつ景況は改善傾向にあるものの、食材・エネルギー・物流の価格上昇が逆風となっている他、慢性化する人手不足問題への対応が重要課題となっております。

当社グループは、子会社である「株式会社バップアローフードサービス」において、焼肉ライクのフランチャイジーとして運営を行ってきた『焼肉ライク』とともに、イタリアンレストラン『PISOLA』をチェーン展開する株式会社ピソラと新たにフランチャイズ契約を締結し、2024年4月4日に1号店となる「PISOLA三郷店」、次いで2024年9月1日に「PISOLA成田店」をオープンいたしました。一方、『焼肉ライク』の店舗数を6店舗に縮小し、当第3四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は、『焼肉ライク』6店舗、『PISOLA』2店舗の計8店舗となりました。

『PISOLA』は、「南国（島）のリゾートホテルのダイニング」を空間コンセプトに、食事をするだけでなく「大切なひとと記憶に残るひととき」をお過ごしいただける癒しの空間を創出し「今までのファミレスにはなかった価値」の提供を志向しており、「焼肉のファストフード」をコンセプトとして展開している『焼肉ライク』とともに、新たな客層の獲得に取り組んでまいり所存であります。

当社グループといたしましては、新たに営業を開始した「PISOLA三郷店」・「PISOLA成田店」の周辺地域への認知度向上を図るとともに、既存店舗につきましては、特定技能外国人の受け入れをはじめとした効率的な人員の配置、食材管理の徹底によるロスの削減等により、収益体質の改善を推し進めてまいります。

これらの取り組みにより、飲食事業の売上高は769,876千円（前年同期比55.8%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上9,302,643千円（前年同期比9.6%増）、営業利益411,083千円（同15.9%増）、経常利益435,264千円（同10.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益271,052千円（同9.9%増）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セグメント	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
オートボックス事業	7,991,291	94.2	8,532,767	91.7	10,567,740	94.2
飲食事業	494,297	5.8	769,876	8.3	649,063	5.8
合計	8,485,588	100.0	9,302,643	100.0	11,216,804	100.0

各品目別の売上高及び構成比は次のとおりであります。

品目	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
ピット・サービス工賃	2,491,429	29.4	2,638,546	28.4	3,274,912	29.2
タイヤ・ホイール	2,058,049	24.3	2,323,359	25.0	2,636,611	23.5
アクセサリ・メンテナンス用品	1,291,508	15.2	1,345,559	14.5	1,725,079	15.4
オイル・バッテリー	774,199	9.1	853,129	9.2	1,044,461	9.3
飲食	494,297	5.8	769,876	8.3	649,063	5.8
カーエレクトロニクス	700,802	8.3	668,806	7.2	907,485	8.1
車販売	626,698	7.4	660,902	7.1	912,340	8.1
その他	48,603	0.6	42,462	0.5	66,849	0.6
合計	8,485,588	100.0	9,302,643	100.0	11,216,804	100.0

- (注) 1. 当第3四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は、『焼肉ライク』6店舗、『P I S O L A』2店舗の計8店舗となっております。
2. 各品目の主な内容は、次のとおりであります。

品目	主な内容
ピット・サービス工賃	オイル交換、タイヤ交換、各種用品取付、板金・塗装、車検・整備、ボディーコーティング、ヘッドライトコーティング、車内クリーニング
タイヤ・ホイール	夏用タイヤ、冬用タイヤ、アルミ・スチールホイール
アクセサリ・メンテナンス用品	チャイルドシート、キャリア、チェーン、車内アクセサリ、ドレスアップ用品（ステアリング、シート、ランプ等）、チューンナップ用品（エアロパーツ、マフラー、サスペンション等）
オイル・バッテリー	国産・輸入エンジンオイル、国産車用・外車用バッテリー
飲食	店舗における飲食サービス
カーエレクトロニクス	カーナビゲーション、カーTV、ドライブレコーダー、DVD・CDプレーヤー、スピーカー、アンプ、ETC車載器、接続具等
車販売	新車及び中古自動車

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は5,958,754千円となり、前連結会計年度末に比べ548,102千円（前連結会計年度末比10.1%）増加しました。これは主に現金及び預金203,122千円の減少に対して、売掛金547,225千円及び商品252,109千円の増加があったためであります。固定資産は3,306,276千円となり、前連結会計年度末に比べ223,679千円（同7.3%）増加しました。これは主に投資その他の資産のその他に含まれる繰延税金資産54,898千円の減少に対して有形固定資産が256,259千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は9,265,031千円となり、前連結会計年度末に比べ771,781千円（同9.1%）増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,989,864千円となり、前連結会計年度末に比べ371,707千円（前連結会計年度末比23.0%）増加しました。これは主に未払法人税等90,854千円及び賞与引当金68,871千円の減少に対し、買掛金344,361千円及び短期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）187,153千円が増加したことによるものであります。固定負債は1,150,650千円となり、前連結会計年度末に比べ269,797千円（同30.6%）増加しました。これは主に固定負債のその他に含まれる長期リース債務15,700千円の減少に対し、長期借入金263,346千円が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は3,140,514千円となり、前連結会計年度末に比べ641,474千円（同25.7%）増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は6,124,517千円となり、前連結会計年度末に比べ130,306千円（前連結会計年度末比2.2%）増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払いにより利益剰余金が130,447千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は66.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月9日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,051,587	2,848,474
売掛金	702,113	1,249,339
商品	1,116,073	1,368,183
その他	540,878	492,756
流動資産合計	5,410,652	5,958,754
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,273,224	2,462,952
減価償却累計額	△1,367,200	△1,428,798
建物及び構築物(純額)	906,024	1,034,154
土地	686,694	686,694
その他	873,721	1,013,099
減価償却累計額	△564,527	△575,776
その他(純額)	309,194	437,323
有形固定資産合計	1,901,913	2,158,172
無形固定資産	9,292	7,245
投資その他の資産		
差入保証金	621,222	625,655
その他	550,169	534,989
貸倒引当金	—	△19,785
投資その他の資産合計	1,171,391	1,140,859
固定資産合計	3,082,597	3,306,276
資産合計	8,493,250	9,265,031
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	519,153	863,514
短期借入金	14,700	132,265
1年内返済予定の長期借入金	—	69,588
未払法人税等	113,182	22,328
賞与引当金	142,155	73,283
その他	828,965	828,884
流動負債合計	1,618,156	1,989,864
固定負債		
長期借入金	—	263,346
退職給付に係る負債	608,434	634,155
資産除去債務	109,167	124,657
その他	163,280	128,491
固定負債合計	880,883	1,150,650
負債合計	2,499,039	3,140,514
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	653,084	653,084
資本剰余金	627,597	627,597
利益剰余金	4,713,562	4,844,009
自己株式	△117	△117
株主資本合計	5,994,127	6,124,574
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83	△57
その他の包括利益累計額合計	83	△57
純資産合計	5,994,210	6,124,517
負債純資産合計	8,493,250	9,265,031

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	8,485,588	9,302,643
売上原価	4,487,274	4,538,109
売上総利益	3,998,313	4,764,534
販売費及び一般管理費	3,643,512	4,353,451
営業利益	354,801	411,083
営業外収益		
受取利息及び配当金	6,540	6,878
受取手数料	6,926	6,576
受取協賛金等	22,155	5,428
その他	13,054	27,389
営業外収益合計	48,678	46,273
営業外費用		
支払利息	7,211	8,855
貸倒引当金繰入額	—	5,866
その他	1,391	7,370
営業外費用合計	8,603	22,092
経常利益	394,876	435,264
税金等調整前四半期純利益	394,876	435,264
法人税、住民税及び事業税	128,263	109,250
法人税等調整額	20,007	54,960
法人税等合計	148,270	164,211
四半期純利益	246,605	271,052
親会社株主に帰属する四半期純利益	246,605	271,052



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	246,605	271,052
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	119	△140
その他の包括利益合計	119	△140
四半期包括利益	246,725	270,912
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	246,725	270,912
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートバックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,991,291	494,297	8,485,588	—	8,485,588
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,991,291	494,297	8,485,588	—	8,485,588
セグメント利益又は損失 (△)	685,594	△60,632	624,962	△270,161	354,801

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△270,161千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートボックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,532,767	769,876	9,302,643	—	9,302,643
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,532,767	769,876	9,302,643	—	9,302,643
セグメント利益又は損失 (△)	745,393	△59,364	686,028	△274,945	411,083

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△274,945千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	126,409千円	124,553千円